

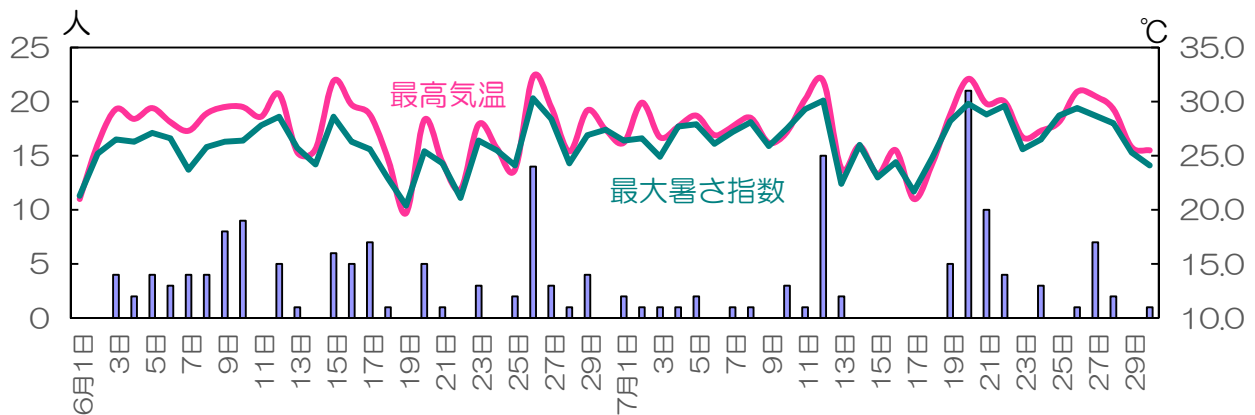
# 熱中症情報

## <搬送数>

令和2年5月1日～7月30日までの搬送数（消防局データを使用）は、計204人（5月24人、6月96人、7月84人）でした。6月は最高気温が25℃を超える日が多く、5月よりも増加しました。7月は雨の日が多く、7月20日（最高気温が32.1℃で、20人）は多かったですが、6月よりも減少しました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。梅雨が明け、暑さに身体が慣れていない時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しています。『新しい生活様式』を実践し、感染症予防とともに、これまで以上に熱中症予防にも心掛けましょう。



**暑さ指数とは？** 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

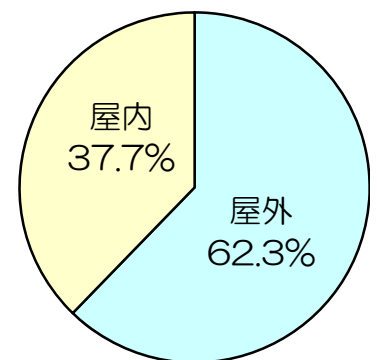
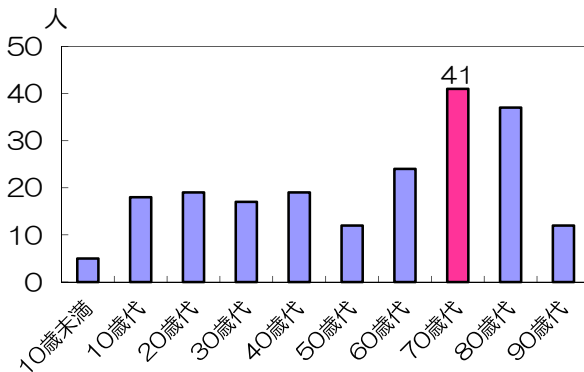
以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

## <年齢別>

年齢別では、70歳代が41人と、最も多く、20.1%でした。

## <発生場所>

屋外62.3%、屋内37.7%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症56.4%、中等症39.7%、重症3.4%、重篤0.5%でした。高齢者（65歳以上）の重症の割合が高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

